

# 北区自治協議会（第7期）を振り返って

北区自治協議会会長 松田 正實

## 1 はじめに

令和元年度からの第7期区自治協議会は、委員30名中、新メンバーを21名加えてのスタートとなりました。毎月一回住みよい北区のまちづくりに向けて話し合い、地域課題の解決に取り組んできました。

全体会では主に区役所から提案される事業内容に対して協議を行い、部会では地域の身近な課題を話し合っ事業を行ってきました。

昨年度の区自治協議会提案事業では、独り暮らしの高齢者や子どもたちの見守りをテーマにしたフォーラムの開催、乳幼児を育てる環境の改善に向けた冊子づくり、区内の小学6年生を対象とした国際的なヴァイオリン奏者のコンサートの実施などを行って好評でした。

今年度は新型コロナウイルス感染症の発生により、感染防止対策として、会議は書面開催、区自治協議会提案事業は内容を変更しての実施を余儀なくされました。

コロナ禍において区自治協議会はどうあるべきか、次の第8期北区自治協議会に引き継いでいただくため、第7期の詳細な活動成果や課題などについて報告いたします。

## 2 取組内容・成果・課題

### (1) 全体会について

#### ア 会議運営（新型コロナウイルス感染症対策）

新しい生活様式に基づく運営ガイドラインを令和2年6月1日に決めました。これに基づき、委員同士の間隔が2m開けられるよう、座席を変更し、マスク着用を原則としました。

間隔を離れたことにより、発言しにくくなったとの意見が多くあり、全員参加の会議とするために、テーマによってはグループ協議を取り入れるなど工夫が必要と思われます。

#### イ 北区自治協議会委員研修会の実施

令和元年度は、「特色ある区づくり予算事業」に関連する施設を視察しました。現場で地域の人々の思いを聞き、理解することができました。バスでの移動は、委員同士のコミュニケーションの機会ともなりました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で従来の視察は難しかったため、座学での研修としました。北区で活躍する山口正康医師を講師に「新型コロナから学ぶこと」と題し、現状と地域でできる取組みなどについて話していただきました。

医療関係者からの具体的な話を聞き、今後の地域での活動に生かせる知見を得ることができました。

## (2) 部会・提案事業について

### ア 総務部会

総務部会は、区自治協議会全体の運営、協議内容の検討、区自治協議会だよりの編集を所管する部会です。

全体会の内容を事前に確認し、より活発な区自治協議会とするにはどの様にすべきか検討を行いました。また、区自治協議会をより多くの方に知っていただけるよう広報紙の編集を行いました。

令和2年度の市政世論調査の結果において、「区自治協議会の名前も活動内容も知っている」と答えた北区民は26.2%（市全体は17.4%）となっており、活動内容まで含めた認知度は、8区中一番高くなっています。一方で、「知らない」と答えた区民は40.4%（市全体は52.8%）となっており、引き続き区自治協議会の活動を広報していくことが必要です。

### イ 地域づくり部会

地域づくり部会は、賑わいづくり、公共交通、地域産業、人口減少、空家活用、防災分野を所管する部会です。

令和元年度は、区内の見守り活動を行っている団体の情報交換の場として「北区みんなで見守り隊」と題したフォーラムを開催しました。

令和2年度は、高齢者の外出を促し、健康寿命の延伸を図るため、区内の多様な生活交通網を集約したマップを作成しました。

### ウ 福祉教育部会

福祉教育部会は、子育て、教育、医療・保健、福祉分野を所管する部会です。

令和元年度は、新潟医療福祉大学の学生による家庭介護セミナーを開催し、学生と地域の交流によりつながりが深まり、支え合いの機運を高めることができました。また、乳幼児の育成環境改善のため、子育てに大切なことをまとめた「ママ・パパ応援パンフレット」を作成しました。

令和2年度は、この第2弾として、思春期の子育ての参考となるよう、小学校高学年から中学生の保護者向けのパンフレットを作成しました。

## エ 自然文化部会

自然文化部会は、文化・スポーツ、環境、空家対策分野を所管する部会です。

令和元年度は、区内の小学校6年生を対象に、音楽を身近に楽しむ機会を設け、感性を育むため、ヴァイオリンコンサートを開催しました。また、福島潟のラムサール条約登録に向けて、パンフレットの配布やパネル展示を行いました。

令和2年度は、豊栄高等学校の協力で、福島潟の魅力を発信する動画を制作、配信しました。

※提案事業の具体的な成果・課題等については、添付の事業評価書を参照ください。

確定版では事業評価書(2カ年分)を添付します

## 3 おわりに

第7期を振り返り、委員から全体会については、行政の事業内容や各団体の状況を詳しく知ることができ、大変勉強になった、自治会活動の役に立ったとの声がある一方、報告事項が多く、人数も多いため意見が出しにくい、全員が議論に参加するための工夫はできないかなどの課題が挙げられました。

また、部会については、一つのを皆で作り上げていく大変さと楽しさを改めて感じた、委員が主体となり成果が大きかったとの声があり、さらに委員が主体となり、多様なニーズに対応できる取組みが必要であるとの課題が挙げられました。

また、コロナ禍において人との関わりが分断され、交流が否定されていると感じる今、人と人をつなげ、みんなが元気になれるような事業に取り組みたいとの意見が寄せられました。

第8期では、このような点を踏まえつつ、協働の要としてさらなる活動の活性化が図られることを期待します。